

# ウクライナ出身の二人の力士(一) 飯田 梅子

はじめに

二〇二三年はウクライナの相撲界にとって忘れがたい年になるだろう。

七月の名古屋場所では、ウクライナ人初の太相撲力士・獅司(しし、二六歳、雷部屋)が東十両一二枚目に昇進した。ウクライナ出身初の関取誕生である(ウクライナ系力士としては、ウクライナ人の父を持つ元横綱大鵬がいる)。獅司は、七月と九月の二場所、ともに九勝六敗の好成績で勝ち越し、一月の九州場所では十両上位で新入幕を狙うことが期待される。

このほか、九月の秋場所では、二人目のウクライナ人力士・安青錦(あおにしき、一九歳、安治川部屋)が初土俵を踏んだ。番付前の前相撲に臨んだ安青錦は、相手を圧倒する力強い相撲で三番を全勝で終えた。

ともに体格に恵まれ、稽古熱心、将来有望な力士たちである。マスコミ報道などからうかがい知ることができる人柄も、寡黙、実直、素直、ユーモア精神もあるなど、好感が持てる。この二人について、日本相撲協会の公式情報や国内の報道以外に、筆者の専門であるロシア語、さらには最近学び始めたウクライナ語のソースも参照しながら、数回に分けてご紹介したい。

## 一. ウクライナ出身力士の母語

周知のように、ウクライナの公用語はウクライナ語 *українська мова* で、人口の八割前後が使用しているとされる。二〇二二年二月のロシアによるウクライナ侵攻後は、ロシア語忌避の傾向が強まっており、ウクライナ語の話者人口がますます増加している実態が、ウクライナ国内で実施された世論調査でも明らかにになった(二〇二三年六月三日付、*Міжнародний Регіональний Інститут. Восьме всеукраїнське муніципальне опитування*。以下、第八回調査)。

このほか、帝政ロシアやソヴェト政権の言語政策の影響で、ロシア語を母語とするウクライナ人も人口の三割前後にのぼる。ロシアと国境を接するウクライナ東部や南東部には、ロシア語母語話者や、ウクライナ語とロシア語のバイリンガルが多く居住する。中部や東部には、ウクライナ語とロシア語の混合言語スルジク *суржик* を話す住民も多い。

本稿でとりあげる二人の力士の母語はどうだろうか。これまでのところ、相撲協会や所属部屋などの公式ページに記載がないので、今までの二人の日本国内のインタビューでの発言、ウクライナ国内の記事・動画などのソースから推察したい。

## 二・獅司の母語

獅司は、ウクライナ南東部ザポリージャ州メリトポリ *Меритополь* の出身である。ザポリージャは、ウクライナ・コサックの一大拠点で、一六四八年にザポリージャ・コサックの頭領（ヘチマン）フメリニツキーがポーランド・リトアニア共和国に対して乱を起こし、コサック国家のヘチマン国家が約一世紀半に渡って存在した。伝統的に、勇猛な精神に満ち溢れた土地柄である。

二〇二二年二月末のロシアによる占領以前は約一五万人が居住していたが、同年三月に市長がロシア軍に拉致され、同九月末にはロシアがザポリージャ州とヘルソン州の併合を宣言し、メリトポリはロシア側によって臨時州都に指定され、現在に至る。

アゾフ海に隣接するメリトポリは、ギリシャ語で「蜂蜜の町」を意味する。現在のメリトポリが位置する地域は、紀元前七世紀にはスキタイ国家の版図に含まれており、スキタイ時代の古墳から多くの黄金美術の副葬品が出土している。ロシアの占領後、メリトポリ郷土史博物館に収蔵されていたスキタイ黄金美術など約二〇〇点が略奪されたという。(JAPANART news、二〇二二年五月二六日付)

ザポリージャの家庭で話される言語は、侵攻前の二〇二一年六月には、ウクライナ語が二七%、ロシア語が九六%と、ロシア話者が圧倒的多数であった(二〇二一年九月一六日付、*Міжнародний Республіканський Інститут, Словесно-всукраїнське муніципальне опитування*。以下、第七回調査)。しかし、侵攻一年後の二〇二三年

五月には、ウクライナ語が二三%、ロシア語は六七%と、実に三割近くロシア話者が減少している(第八回調査)。

獅司本人、母ユリヤさん、メリトポリ時代のククソフコーチなどのインタビューがロシア語で記事化されていること、侵攻前にザポリージャの家庭で話されていた言語の九割以上がロシア語だったことを鑑みると、獅司の母語はロシア語だと思われる。

ただし、ウクライナ語を全く話さないわけではないようだ。というのも、獅司が電話で「Попытался украинскому японцев научить - получилась! А вот для меня японский - сложноватый. [日本人にウクライナ語を教えてみたら、上手くいったよ! でも、僕にとって日本語はちよつと難しい。]」と話していたと、ククソフコーチが明かしているからだ(КРУА、二〇一八年二月二四日付)。つまり、獅司は周囲の日本人に、得意なロシア語ではなく、ウクライナ語を教えていたことになる。この会話からすると、獅司の母語はロシア語だが、外国人には公用語のウクライナ語を教えようという意識が働いたと考えられる。

このことの裏付けとして、獅司自身の「ウクライナ語とロシア語、どっちも喋るけど、ロシア語のほうが上手です。ウクライナ語は、ちよつとあんまり。」との言葉が、Yahoo エキスパートの記事に引用されている(二〇二三年九月七日付)。

結論として、獅司の母語はロシア語、第二言語はウクライナ語だと推察される。

### 三. 安青錦の母語

安青錦は、首都キーウから南西約二〇〇km、ウクライナ中西部のヴィンヌイツヤ州ヴィンヌイツヤ Vinnytsia に生まれた。ヴィンヌイツヤは、モルドヴァ共和国に隣接し、ドニエストル川沿岸に位置する。キエフ・ルーシ以前から入植のあった古都で、一四世紀半ば、リトアニア大公の要塞が築かれたことを起源とする。

ロシアによる侵攻前は約三七万人が居住していたが、侵攻後は約五万人の国内避難民を受け入れているという。二〇二二年七月には、黒海に展開するロシア潜水艦から発射された巡航ミサイル「カリブル」の攻撃を受け、二三人が死亡したと報道された（二〇二二年七月一日付、CNNおよび朝日新聞）。



メリトポリ時代の獅司  
(出典：Официальный блог  
Сергея Соколовского)

ヴィンヌイツヤの家庭で話される言語は、侵攻前の二〇二一年六月には人口の八一%がウクライナ語、三四%がロシア語だったが（第七回調査）、侵攻後の二〇二三年五月には八五%がウクライナ語、一五%がロシア語となっており、ウクライナ語話者が増え、ロシア語を話す人口は急減している（第八回調査）。

安青錦の出身地ヴィンヌイツヤでは、侵攻以前も以後も、八割以上の住民が家庭でウクライナ語を話していること、安青錦のヴィンヌイツヤ時代の記事がほぼすべてウクライナ語で書かれていること、さらには、現在確認できた二本の動画で安青錦がウクライナ語を話していることから、安青錦の母語はウクライナ語であると思われる。



Данило Явгусішин  
дворазовий чемпіон України з  
сума 2021 серед юнаків, Вінниця  
ヴィンヌイツヤ時代の安青錦  
(出典：Суспільне Запоріжжя)

(「ウクライナ出身の二人の力士(二)」に続く)

## (後記)

当初、「ウクライナ出身の二人の力士」と題して、単発のぎっくりとした紹介記事を書こうと考えていた。しかし、調べれば調べるほど、獅子のメリトポリ時代の実績が膨大であること、安青錦のヴィンヌイツァ時代のウクライナ語ニュース動画が見つかったことなどから、がつぶり四つに組んでじっくり時間をかけて、二人の力士についての文章をまとめたいと考えるようになった。

今後、続編として、「(一) 獅子 大(ししまさる)」(二) 安青錦 新大(あおにしき あらた)」を構想している。獅子についての深掘り記事を書く頃には新入幕を果たして欲しい、安青錦について書く頃には幕下上位か新十両に昇進して欲しいとの願いを込めて。

実のところ、安青錦の記事を書く頃には、私のウクライナ語の力も少しは上達していることを願っての予定でもある。今年六月からオンライン講座で学び始め、現在、オンライン辞書と首っ引きで(机上で引ける、紙の宇和辞典の出版が切に待たれる。目下、市販の紙の語彙集と、宇・英・和・露、いずれかのオンライン辞書を駆使しながら当座を凌いでいる)、読解は何とかなるが、聴解は二割も理解できない状況である。安青錦のヴィンヌイツァ時代の動画は、現時点で *Дуже гарно* (とても良い) *коронавірус* (コロナウィルス)、*Чемпіонат Європи* (欧州選手権) ぐらいしか聴き取れないので、半年か一年後には、おおよそ理解できるくらいに上達していればという期待と決意を込めての予告である。

ウクライナ語学習について。ロシア語学習者、他のスラヴ語学習者、あるいは言葉に興味のある人には、ぜひチャレンジしてみることをおすすめしたい。とくに、ロシア語・スラヴ語学習者にとっては、キリル文字を一から覚える必要が無く、語彙や文法になじみ深い要素が多いので、いざ始めてみると驚くほど楽しく学習できると思う。私自身、身をもって知の楽しみを味わっている。大学院時代になんとなく二年間履修したポーランド語の語彙や知識が、ウクライナ語を学ぶ過程で思いがけず役立つっており、過去からご褒美を貰えたような不思議な感慨がある。新しいことを始めるのは楽しい。自分の中に、ロシア語以外に、ウクライナ語の回路が開通した実感がある。ウクライナ語学習のおかげで、新たな世界が広がり、内面がさらに充実する思いだ。

このコラムを書き終える頃には、必ず戦争が終わっていて欲しい。そう切に願う。

